

## 第1学年 学力向上のための学習指導案（国語科）

日 時 平成29年11月14日（火）第6校時  
場 所 越知小学校1年B組教室  
対象学級 1年B組 19名  
指 導 者 西田 沙也加

1. 単元名 「1年B組の『じどう車クイズ大会』をひらこう！」  
～「じどう車くらべ」（光村図書 1年）～

### 2. 単元の目標

- ◎事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な言葉や文を書き抜くことができる。
- 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。

### 3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"><li>・自動車について説明されている絵本や図鑑、文章などを読み、進んで調べようとしている。</li><li>・調べたことを、クイズ大会で伝え合おうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「そのために」を使って文と文をつなぎ、自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書いている。(B(1)イ・ウ)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・事柄の順序を考えながら読み、内容の大体を理解している。(C(1)イ)</li><li>・本や文章の中から、必要な言葉や文を書き抜いている。(C(1)エ)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・長音・拗音・促音などの表記や、句読点を適切に用いて書いている。(1)イ(エ)(オ)</li></ul>

### 4. 単元設定の理由

(1)学習指導要領を受けて

この単元は、学習指導要領の下記の内容を受けて設定したものである。

「C 読むこと」

目標…書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

内容…文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。(1)エ

本単元は、説明文を読み取り、文章に書かれている「大事な言葉や文を書き抜くこと」をねらいとしている。教材文の中にある自動車の「しごと」と「つくり」を事柄ごとに書き抜いて表に整理し、文章の構成を捉えることができるようにしていく。また、教材文で学んだ文章の形式を生かして、自分で選んだ自動車を説明する文章を書く学習を展開することで、他の図鑑や絵本への読み広げを促す。自分で選んだ自動車についても、「しごと」と「つくり」を読み取り、教材文を参考に「しごと」と「つくり」を関係づけてつながりのある文章を書く学習へとつなげることを目的としている。

単元の指導にあたっては、事柄の順序に沿って、いくつかの事例をもとに書かれてある内容を比べながら読む力を身につけさせたい。まず、何が問われているのかと、答えとして自動車の「しごと」と「つくり」が書かれていることをおさえながら、バスや乗用車、トラック、クレーン車について表に整理してい

く。そして、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取ることで、その働きによって、仕組みが違っていることに気付かせ、内容の理解を図っていききたい。この活動を生かして様々な図鑑や絵本の中から自分が選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について、説明する文章を書く活動につなげていききたい。最後には、書いた説明文を使って「自動車クイズ大会」を開き、友だちと伝え合ったり、新しい知識を得たりすることで、読むことの楽しさを知り、今後の読書活動へとつなげていききたいと考えている。

本時は、クレーン車の「しごと」と「つくり」について読み取り、その関係について考え、話し合う活動が中心となる。前時までの学習を生かして、まず、クレーン車の「しごと」に赤線、「つくり」に青線を引かせることで、クレーン車も2つの問いに対する答えが「しごと—つくり①—つくり②」の順で説明されていることに気付かせたい。次に、「しごと」と「つくり」を表にまとめ、その関係について考えさせていききたい。なぜそのような「つくり」になっているのか話し合う中で、どの自動車も「しごと」に合うように「つくり」が工夫されているということに気付かせていききたい。

## (2) 児童の実態

本学級の児童は、これまでに「くちばし」で、「問い—答え」が3回繰り返されている文章を読み、『クイズカード』にまとめる学習を行った。さらに、「うみのかくれんぼ」では、「問い—答え—答え—答え」で構成された文章を読んできている。

読むことについては、すらすら読める児童、暗記して読める児童、拾い読みで内容の理解に至るまでに時間がかかる児童など、個人差が見られる。しかし、音読練習を重ねることにより、徐々に言葉や文としてのまとまりを意識した読みができるようになってきている。説明文の学習では、文の表現に着目してサイドラインを引いたり、挿絵と文を照らし合わせたりすることによって、楽しみながら書かれていることの大体を読み取ることができるようになってきたが、内容を正しく読み取ること課題のある児童が数名いる。

話し合い活動については、全体的に意欲的で自分の考えを積極的に発言しようとする児童が多いが、中には友だちの発表になると、最後までしっかりと話を聞くことのできない児童も見られる。しかし、友だちの発言に反応している児童や、友だちと自分の考えを比べて発言している児童、友だちの考えに付け加えて発言している児童などを評価していくことで、最後まで友だちの話を聞くことのできる児童が少しずつ増えてきている。

## (3) 研究主題との関連

『主体的・対話的な学びを通して、練り合いが深まる授業指導の実践』という研究主題を受け、国語科の授業でも、一年生なりに学習リーダーが授業を進行するよう取り組んでいる。前時の振り返りをしたあと、問いの共有、課題設定、問いに対するヒントを確認し、自力解決を図るようにしている。授業の中では、必ずペア学習を取り入れ、自分の考えを伝え合ったり、友達の考えを聞いたりするなかで、主体的・対話的な学びにつながるよう意識している。全体学習では、友達の意見をしっかりと聞き、つなげて発言できた児童を評価したり、切り返しを行ったりして、練り合いが深められるよう努めている。

本時は、クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて説明することを目的としている。児童が主体的に学べるよう次のような手立てを講じる。まず、学習した自動車についてクイズ形式で振り返ることで、本時の活動に対する意欲を高めていききたい。また、前時までに学習したバスや乗用車、トラックについて書かれてある教材文を小黒板に掲示しておき、前時までに読み取った事柄と本時の読み取った事柄を比較しながら、理解を深めさせていききたい。そして、交流する中で、考えが深まりにくい場合には「つくり」に対して「不足」の場合を取り上げたり、動画をみせたりするなどしていく。「しごと」に対する「つくり」の重要性について共有していくようにする。さらに、3つの自動車の「つくりの違い」についても取り上げ、どの自動車もそれぞれの「しごと」をするのに適した「つくり」になっているということに全体学びの中で気付かせたい。そして、教科書以外の自動車の「しごと」や「つくり」についても捉えられるようにしていきたい。

## 5. 指導と評価の計画(全11時間 本時 5/11)

関：国語への関心・意欲・態度

書：書く能力

読：読む能力

言：言語についての知識・理解・技能（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

次	時間	学習内容	評価				図書館資料活用	
			関	書	読	言		評価規準 (評価方法)
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車のクイズを出し、知っている自動車について話し合う。</li> <li>「自動車クイズカード」のモデルを見て、学習の見通しをもつ。</li> <li>単元の学習課題と、学習計画を確認する。</li> </ul>	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車について知っていることを話したり聞いたりして、クイズ作りに関心をもち、自動車に関する本や文章を進んで読もうとしている。</li> <li>(発言・観察)</li> </ul>	並行読書 (関連図書)
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「じどう車くらべ」を読み、気付いたことを話し合う。</li> <li>問いと答えに着目して読み、自動車が3種類出てくると、2つの問いに対して、それぞれの段落に3つの答えが書かれていることを捉える。</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>問いが何か、答えがいくつ書かれているかを読み取っている。</li> <li>(発言・ノート)</li> </ul>	
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取り、表に整理する。</li> <li>書き抜いた文の文末を短く表すことを知る。</li> <li>「そのために」で文と文がつながっていることを確かめる。</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>「しごと」と「つくり」で書かれていることに気付いている。</li> <li>(ノート)</li> </ul>	
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラックの「しごと」と「つくり」を読み取り、表に整理する。</li> <li>「しごと」と「つくり」のつながりについて考える。</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>トラックの「しごと」と「つくり」を読み取り、その関係について考えている。</li> <li>(ノート)</li> </ul>	
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り、表に整理する。</li> <li>「しごと」と「つくり」のつながりについて話し合う。</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて表現している。</li> <li>(発言・ノート)</li> </ul>	
	6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>はしご車の挿絵やこれまでの学習を手がかりに「しごと」と「つくり」を予想して書く。</li> <li>はしご車が図鑑や本などにどう書かれているのかを確かめる。</li> </ul>			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>はしご車の説明を、「しごと」と「つくり」に分け、「そのために」を使って書いている。</li> <li>(ノート)</li> </ul>	↓
3	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の絵本や図鑑を読み、自分が選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を書き抜き、問題文を書く。</li> </ul>	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車について説明されている絵本や図鑑などを読み、進んで調べようとしている。</li> <li>(観察)</li> <li>本の中から「しごと」と「つくり」にあたる部分を書き抜いている。</li> <li>(ノート)</li> </ul>	自動車図鑑

9	・画用紙に自動車の絵を描き、自動車クイズカードを完成させる。	◎	○	・調べた自動車について、「しごと」と「つくり」を「そのために」を使って書いている。(カード) ・長音・促音などの表記や、句読点を正しく使って書いている。(カード)	自動車図鑑はたらく自動車ずかんはたらくくるま
10 ・ 11	・グループでクイズ大会の練習をする。 ・自動車クイズ大会を開き、感想を伝え合う。 ・学習を振り返る。	○		・調べたことを、クイズ大会で伝え合おうとしている。(観察・ノート)	↓

## 6. 本時の構想

### (1) 目標

- ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて読むことができる。

### (2) 学びを深める手立て

- ・共通点に気付かせるために、クレーン車の「しごと」を既習の自動車に入れ替えて考えさせる。

### (3) 言語活動によって身に付けさせたい資質・能力

- 「しごと（働き）」のために、その「つくり（形態・構造）」になっていることを説明できる。

### (4) 展開

学習過程	学習活動	○教師の働きかけ ◇評価（方法）	学習用語
導入 (2分)	1. 前時までの学習を振り返り、自動車の「しごと」と「つくり」を確かめる。	○2つの問いの文を掲示しておく。 ○クイズ形式で既習の自動車の「しごと」と「つくり」を振り返らせる。	問い①② 答え しごと つくり① つくり②
課題設定 (3分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           ㉟ クレーン車のしごととつくりについて かんがえ、つたえあおう。         </div>		
自力解決 (7分)	2. クレーン車について書かれた文章を音読する。 3. 「しごと」と「つくり」を読み取り、つながりについて考える。	○「しごと」と「つくり」を見つけながら読むようにさせる。 ○「しごと」に赤線、「つくり」に青線を引いて色分けをし、ペアで確認をさせる。 ○全体で「しごと」と「つくり」について確認し、大事な言葉を模型等を使いながらおさえる。 ○なぜそのような「つくり」になっているのか問いかけ考えさせる。	つり上げる 車たい
ペア学習 (3分)	4. 「しごと」と「つくり」のつながりについて交流する。	○学習用語を確認し、「しごと」と「つくり」の関係について考えさせる。	じょうぶなうで
全体学習 (25分)	○クレーン車について ・重いものをつり上げないとい	○話し合いが進まない場合は、別の見方や考え方を提示する。	のびたり うごいたり

<p>価値の共有 (まとめ)</p>	<p>けないので、しっかりしたあし が大切だと思いました。 【B 評価】</p> <p>○学習した3つの車について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの自動車も「しごと」をするために「つくり」が工夫されているということが分かりました。トラックは～…バスは～… 【A 評価】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりしたあしがない場合</li> <li>・うでのびない、動かない場合</li> </ul> <p>◇クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて表現している。 (発言・ノート)</p> <p>○課題の「クレーン車」を「3つの車」に変えて、なぜそれぞれ「つくり」が違うのか問いかけ考えさせる。</p> <p>○クレーン車の「しごと」が他の自動車でもできるのか考えさせる。</p> <p>○どの自動車も「しごと」に適した「つくり」になっていることに気付かせる。</p>	<p>しっかりしたあし そのために</p>
<p>振り返り (5分)</p>	<p>5. 振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかったこと</li> <li>・もっとしりたいとおもったこと</li> <li>・ともだちからまなんだこと</li> </ul> <p>・クレーン車がつり上げるしごとをするには、しっかりしたあしが大事だとわかりました。 【B 評価】</p> <p>・どの車も「しごと」にぴったりあった「つくり」になっているということがわかりました。 【A 評価】</p>	<p>○振り返りの視点を示す。</p> <p>○ペアで学習を振り返る。</p>	

(5) 評価の視点

- ①話し合い活動により、児童の学びが深まったか。
- ②本時のねらいは達成できたか。
- ③自分の学びを振り返り、自覚することができているか。

〈本時の評価規準〉

・クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて表現している。

(発言・ノート)

評価	評価基準	学びをみとるキーワード
A	クレーン車の「しごと」と「つくり」の関係について「しごと」のためにその「つくり」になっていることを理解し、その他の自動車も同様の関係であることを表現している。	しごと つくり そのために おもいものをつり上げるのびたりうごいたり しっかりしたあし
B	クレーン車の「しごと」と「つくり」の関係について「しごと」のためにその「つくり」になっていることを表現している。	
C	クレーン車の「しごと」と「つくり」について表現できていない。	

## 7. 研究協議の視点

○クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて説明できていたか。

## 8. 板書計画

**キーワード**

のびたりうごいたり  
しごと  
つくり  
そのために  
しっかりとあし  
おもいものをつり上げる

**ふり**

・クレーン車がつり上げるしごとをするには、しっかりとあしがだいじだとわかった。  
・どの車も「しごと」にびったりあった「つくり」になっていることがわかった。

**もちとだ**

バスや乗用車	トラック	クレーン車
人をのせてはごぶしごと	にもつをはごぶしごと	おもいものをつり上げるしごと
ざせきがひろい。	うんでんせきのほかは、ひろい	じょうぶなうでがのびたりうごいたりする。
大きなまどが、たくさんある。	タイヤがたぐさ	しっかりとあしが

それぞれの自動車について  
の話し合い結果

**ひとりの**

クレーン車は、おもいものをつり上げるしごとをしています。

**ペア**

そのために、じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするように、つくってあります。

車たいがかたむかないように、しっかりとあしが、ついています。

**か**

じょうぶなうでが、  
クレーン車  
のしごととつくりについてかんがえ、つたえあおう。

3つの車

①せんをひく。  
しごと ↓ 赤  
つくり ↓ 青

②ひょうにまとめる。  
みじかいことばで

問① ① どんな **しごと** を していますか。

問② ② どんな **つくり** に なっていますか。

**そのために**

バスやじょうよう車は、人をのせてはごぶしごとをしています。

**そのために**

ざせきのところが、ひろくつくってあります。そのけしきがよく見えるように、大きなまどがたくさんあります。

トラックは、にもつをはごぶしごとをしています。

**そのために**

うんでんせきのほかは、ひろいので、ひろいになっています。

おもいものをつり上げるトラックには、タイヤがたくさんついています。

## 9. 授業後の研究協議より

研究協議の視点

○クレーン車の「しごと」と「つくり」を関係づけて説明できていたか。

### 《ワークショップの意見から》 ●課題 →改善策

- 価値の共有（まとめ）の時間を確保する。
- 本時のねらいであるクレーン車の扱いと3つの車を比べる部分の比重はこれでよかったかどうか。

- 評価 A にするためには、3つの車を扱う時間をもう少し長くするとよかったのではないか。  
→3つの車についての「しごと」と「つくり」を考える時間を長くする。
- 本文に立ち返ることができたらよかった。
- キーワードの活用・振り返りに、「しごと」に合った「つくり」になっていることができていなかった。

## 《授業者の授業改善プラン》

- 本文に立ち返って読みを深めるようにする。
- 児童のよい発言などを価値付けてから学習を振り返る活動に入るようにする。
- タイムマネジメントを意識し、時間をかける必要があるところに時間がかけられるようにする。

## 《授業者の授業から参観者が学んだこと》

- 学習リーダーが授業の流れを理解し、自分たちで主体的に授業を進める。《主体的な学び》
- 振り返りの時間が確保され、自分の学びを振り返る姿が見られた。《主体的な学び》
- 教室に単元の学習の流れやこれまでの学習の足あとが掲示され、これまでの学習過程が可視化でき、前時までの学習が本時の学習の中に生かされていた。《主体的な学び・学びを深める手だて[つながり]》
- 具体物（クレーン車）が用意されていたことは、児童の理解を図る視覚的な支援や対話的な学びをより効果的にするツールとなった。《対話的な学び・学びを深める手だて》
- 表を用いて、3つの車のしごとを入れ替えて見せたことは分かりやすかった。《学びを深める手だて》
- 子ども同士がよく学び合う学級づくり人間関係づくりができています。《学びの土台となる仲間づくり》

## 《助言者の先生から》 中部教育事務所 大窪指導主事

- 児童が学習の見通しをしっかりと持って、授業に向かうことができていた。
- 学習リーダーが、自分で学習を進めるという自覚を持って授業を進めていた。
- 一人一人に学びがあり、ペアでも学んだことをスムーズに交流していた。また、学びにしっかりと向き合う姿が見られた。
- 全体での話し合いが、とてもよくできていた。発表者の発言をよく聞いて、発言していた。
- 話し合いの際に、何について話し合うかポイントを明確に示していた。それによって、焦点化されたペア学習となり、スムーズに話し合いができていた。
- 終末において、一部の児童から「どの車も仕事をするのに都合のよいつくりになっている」という発言があった際、授業者が全体に返し、振り返る活動に入ることができるとよかった。